

倒産集計**信用交換所京都本社**

09年8月繊維倒産

注目大手が相次ぎ破たん、先行き不透明で予断許さず

全 国 発生件数 = 43件 負債額 = 153億7100万円

2009年(平成21年)8月の全国繊維業者の倒産(負債額1000万円以上=整理・内整理含む)の発生件数は43件で、前月比で12件(21.8%)減少し、前年同月比で6件(16.2%)増加した。負債額は153億7100万円で、前月比で31億7000万円(26.0%)、前年同月比で43億9000万円(40.0%)増加した。

負債額10億円を超える大型倒産は株エム・ドウ(大阪府中央区、婦人服製造・小売、負債額30億円)をはじめ、株千金ワールド(神奈川県川崎市、日用雑貨ほか小売、同21億6300万円)、株もくもく(京都市中京区、婦人服製造・小売、2月民事再生法申請)のグループ会社である株V L N(旧株バレンザ、東京都渋谷区、婦人服・ニット製品製造・小売、同19億1800万円)と株K T E(旧株トゥエレメンツ、東京都渋谷区、婦人服製造・小売、同12億2100万円)、さらに株クマダ(岐阜市、紳士服卸、同10億円)の計5件で前年同月と同水準となり、負債額はこの5社で全体の60.5%を占めた。

各種の景気動向や業況調査などでは景気の悪化に底打ち感がうかがわれ、政府の経済対策の成果もあって4-6月期の実質国内総生産(GDP)はプラス成長に転じた。しかし、数字上で景況感に持ち直しの傾向がみられるとは言え、企業及び個人単位ではそれを実感できる状況にはほど遠く、先の衆議院議員選挙での与党の大敗はそれを物語っている。

昨秋以降の急激な消費不振に雇用不安なども加わり、依然として経営環境は厳しい状況が続いており、こうした中で過大な借入金を抱える企業や財務体質が軟化している企業においては、金融機関の融資姿勢の硬化から資金繰りの多忙化は否めず、今後も倒産件数は強含みで推移していくことが予想される。

業種別では、消費不振を反映して「小売商」が13件と全体の30.2%を占め、また「紳士・婦人・子供服・被服製造卸」も16件(37.2%)と高水準で推移しており、この2業種で全体の7割近くを占めている。そのほか「ニット製品・洋品雑貨製造卸」「その他」各4件、「染色整理・特殊加工」2件、「紡績・撚糸製造」「糸及び原料商」「織物卸」「寝具・インテリア製品製造卸」各1件。

原因別では、「業績ギリ貧」が35件で全体の8割超を占め、依然として不況型倒産が高水準で推移していることがうかがわれる。以下は「業況急変」4件、「貸し倒れ損失」「融手連鎖」「放漫経営」「資金力薄弱」各1件だった。

京都 発生件数 = 1件(前年同月2件)負債額 = 3000万円(前年同月14億100万円)

滋賀 発生件数 = 0件(前年同月0件)負債額 = 0万円(前年同月0万円)